

大学におけるダイバーシティ教育の地平

～学生主体のダイバーシティ推進に向けて～

研究者代表 国際政策文化学科 3年 伊藤彩花

共同研究者 国際政策文化学科 3年 文屋 麗

国際政策文化学科 3年 片桐俊博

1. 研究目的

本研究では、「大学における学生主体のダイバーシティ教育をどう実現していくか」というリサーチクエスチョンを設定する。私たちは、現在の教育に不足している、学生と教職員による2者の双方向的な学びが必要であると考えた。研究を通して、新しい大学におけるダイバーシティ教育のモデル案を提供することを目的とする。これにより、学生がのびのびと学ぶ環境の確立を目指すことが可能であり、いずれ社会全体を変化させる上で大きな役割を果たすことを望む。そのため、我々で検討したモデル案が実際にどのように機能したかを観測し、誰しものが自由と平等を掲げて生活できる社会の実現のために貢献できるよう執筆を行った。

2. 結論

私たちは参加者が自身の特権性について見つめなおすことで、マジョリティ・マイノリティの垣根を越えて、アライとなることを目指すワークショップ（WS）の考案を行った。本WSはまだまだ発展途上であり、今後、中央大学内においてはダイバーシティセンターなどとの協力の元、普及においてどのようなハードルが存在するかを検討しながら、より効果的な実施形態の模索が必要であるとの結論が出た。一方で、本WSに取り上げられる、「特権性・アライ・自分事」というキーワードは現在の教育の現場、ひいては社会・国家全体に必要なと考察する。

行動は無意識な差別・不平等の解消に大きな影響を与えるため、政策や法律を制定する際には、「特権性・マイノリティ」について考慮されたものが制定されるべきであるからだ。

しかし、ただ政策として実行されるだけでは、やはり「自分事」としてとらえる意識の形成は困難である。自身の特権性や属性に触れることでこそ、一人一人の行動に変化が生まれると考える。

そのために、まずは私たちが「行動する知性。」になり、その第一歩として、「大学における学生主体のダイバーシティ教育」の提案をしていく。

私たちの考案するダイバーシティ教育が、学生にとって「当たり前」になり、構造的な差別や不平等の解消に繋がるのが私たちの目標である。

3. 活動内容

2023	5-6月	文献調査 ダイバーシティセンターインタビュー
	7月	総合政策学部設立30周年記念シンポジウムでの発表 李里花ゼミ内でのWS実施
	8月	広島にて包摂社会の実現に向けてシンポジウムでの発表 青年海外協力隊 羽熊さんインタビュー
	9月	国際基督教大学 浜崎先生インタビュー
	10月	武蔵大学・中央大学でのWS実施
	11月	総合政策学部リサーチフェスタでの発表
	12月	早稲田大学での発表
2024	1-2月	プロジェクト奨学金レポートの作成・提出